

## 宮崎市「韓国の友達を作ろう！2011 夏 中学生交流事業」

ソウル事務所

宮崎県中央に位置する旧高岡町（合併後現在宮崎市）と韓国忠清北道（チュンチョンブクト）にある報恩郡（ポウングン）は 1993 年（平成 5 年）に姉妹都市締結を行い、これまでに人的交流や農業技術交流などを積み重ねてきました。今回は、宮崎市の「韓国の友達を作ろう！2011 夏 中学生交流事業」のうち、中学生がこの報恩郡を訪問して交流する様子をご報告します。

### 1. 韓国での行程と文化体験

#### (1) スケジュール

- 1 日目 宮崎空港からインチョン空港  
（直行便にて韓国ソウルへ）  
文化体験としてミュージカル  
「ナンタ」を鑑賞
- 2 日目 ソウル市内から報恩郡へ  
報恩郡副郡守を訪問  
韓国の小学生が学ぶ「英語キャンプ」  
の見学  
法住寺にて歴史建造物の見学
- 3 日目 俗離山中学校訪問・交流  
サムルノリ演奏観覧・演奏体験  
伝統家屋見学  
韓国式餅つき体験
- 4 日目 報恩郡からソウル市内へ  
ソウル市内見学（景福宮、青瓦台、ソウル南山タワー）
- 5 日目 統一展望台、自由の橋の見学  
インチョン空港から宮崎空港へ（帰国）



#### (2) 韓国の食事

ほとんど生徒が初めて韓国を訪問したため、本場のキムチやパンチャン（韓国式おかず）を口にするのも初めてでした。「辛い！」という叫びの連続で、ある生徒は私に「韓国の人こんな辛い食べ物ばかり食べているのですか？」と尋ねるので「韓国の料理は辛いものばか



食事風景（サムゲタン）

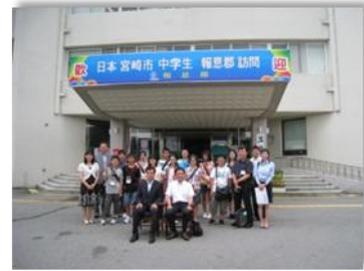
りではなく、辛くない料理もあります。しかし、韓国では小学生くらいになると大人と一緒にキムチを食べる子供も多いそうですよ」と返すとまた驚きの表情を見せていました。

これはほんの一例ですが、生徒にとっては見るのも食べるのも初めてで、日本と韓国の違いを体感できたようです。実際に体験することにより、これまでとは異なる見方で日本を見ることができ、彼らの中に新しい「視点」が追加されたことと思います。

## 2. 姉妹都市報恩郡にて

### (1) 報恩郡の熱烈な歓迎

報恩郡庁舎にバスが到着すると庁舎に横断幕が張られていて、生徒たちは韓国式の歓迎に驚いていました。その後、副郡守から歓迎の言葉を頂きましたが、初めて聞く本場の韓国語に目を丸くしている生徒もいました。



報恩郡庁舎前にて

### (2) 俗離山中学校の特長

俗離山中学校は、報恩郡にあった3つの学校が統合して誕生しました。公立中学校ですが、生徒全員が月曜日に登校して金曜日まで寮で生活し、週末に家に帰るシステムとなっており、寮生活を通して協調性を学んでいるとのこと。



俗離山中学校

また、この中学校では、「愛を育む」を目標としており、自立した、感性と想像力の豊かな生徒を育てるため、先生に対する研修にも積極的に取り組んでいます。

### (3) 俗離山中学校での出会い

歓迎会では、宮崎市の中学生在が一生懸命練習して覚えた韓国語で自己紹介しました。緊張のせいかわ声が小さい生徒もいましたが、俗離山中学校の生徒からの暖かい拍手によって緊張も解けたようで、生徒に笑みも見られました。



剣道の試合後

その後、施設を見学していると、体育館では剣道の練習が行われていました。宮崎市の中学生の中に剣道経験者がいたため、防具を借りて剣道日韓戦を行なうことになりました。試合後にお互いに健闘を讃えて固い握手を交わす場面が友好的で印象深いものでした。

その後、中学校側の粋な計らいで、日韓混合チームによるサッカーの試合が開催されました。この試合は日本側にとって全くの予定外のサプライズでしたが、プレー中に「ニックネーム」で呼び合うなど、言葉の通じない生徒同士がアイコンタクトや身振り手振りで

コミュニケーションを図る姿が印象的でした。日本人と韓国人の文化や言葉の違いはありますが、同年代の考えや行動は共通点も多く、終始笑顔が絶えないサッカーの試合になりました。

ある生徒は、「言葉は分からなくても、目を見れば分かる気がします！」と育ってきた環境は違えども気持ちが通じることに喜びを感じ、ある生徒は、「今度来る時は、言葉でのコミュニケーションを取りたい！」とハングルの勉強に意欲を見せていました。

生徒は自作の「名刺」を俗離山中学校の生徒に渡し、再会を約束していました。交流とは、まず気持ちが通じることが第一であり、言葉はその次でも良いことにあらためて気づかされました。



日韓混合サッカー試合



友好を深めた日韓中学生

### 3. 所感

報恩郡は韓国中部の観光地として発展し、雄大な自然と気候の良さから各種スポーツのキャンプ地としても有名な点が宮崎市と似ています。

中学生という多感な時期に実際に現地で外国人と出会い、言葉を聞き、食事や文化の違いに触れるということは、彼らの人生に影響を与える「良いきっかけ」になったのではないかと思います。

私は、彼らの中から将来の宮崎市と韓国報恩郡との架け橋になってくれる人が出て来る事を期待しています。

報恩郡では、郡守や郡議会議員から熱烈な歓迎を受けました。また、報恩郡最後のお別れの時には、見えなくなるまで手を振ってくれる郡守の姿に、生徒及び訪問団一同感銘を受けました。

報恩郡に感謝の意を表するとともに、姉妹都市となって 18 年の両自治体が、今後も良いところを吸収し合う良きパートナーとして発展することを願っています。



韓国式餅つき体験



ジョン・サンヒョク報恩郡守

(小椋所長補佐 宮崎県宮崎市派遣)